



■ 所属	■ 職名
総合理工学科 建築学系	教授
■ 氏名	
加藤 隆久 (Takahisa Kato)	
■ 研究分野	■ 研究分野キーワード
都市計画・建築(意匠) 計画	都市計画、建築(意匠) 計画、建築設計

■ 研究テーマ

建築は様々な条件や環境の中に建つが、そうした外的要因に適切な配慮をすることで優れた建築ができる。また、建築が存在することで環境をより良くし、新たな状況をつくることもできる。この場合の外的要因（コンテキスト＝文脈）には、環境論（風や光等）、集合論（まちづくりや大学キャンパス計画等）、歴史文化論（日本あるいは東京の都市と建築論等）などの切り口がある。建築をこのようなコンテキストという見方で考え、また設計する方法を研究する。

■ 文献

【作品または設計活動に関連する執筆】

庭も賃貸する集合住宅

『2012年度建築学会大会建築デザイン発表梗概集』（ふるさと再生有縁コミュニティ住宅）

今治Fコート計画—両面開放メゾネット

『2011年度建築学会大会建築デザイン発表梗概集』（空間と環境の統合デザイン）

電気のないラオスの村に現地の土と木で快適な小学校をつくる

『建築ジャーナル2011年1月号』特集：アジアが求む！ 日本人建築家

F邸計画—垂木天井を持つ混構造住宅

『2010年度建築学会大会建築デザイン発表梗概集』（住居系）

2010年日本建築学会賞(業績)

「ラオスの教育援助活動の一環としての小学校の設計と普及」受賞所感

日本建築学会『建築雑誌vol. 125 No. 1607 2010年8月号』

O邸計画—折板構造の屋根に覆われた多目的スペースを持つ住宅

『2009年度建築学会大会建築デザイン発表梗概集』（住居系）

ソイルブロックによるラオス小学校計画 —現地の土と木でつくる快適校舎—

社団法人日本建築構造技術者協会『structure NO.97 2006.1』

米同時多発テロ がれきの中に見えるもの 超高層ビルとテロリズム

『東京新聞2001年(平成13年)10月3日(夕刊)』文化欄

超高層ビルとテロ

『東京新聞2001年(平成13年)10月3日(夕刊)』文化欄

20世紀の技術と21世紀の建築 NGOと建築

『新建築 2000年11月号 創刊75周年記念臨時増刊』

ラオスで学校を建てて NGOの可能性

『東京新聞2000年(平成12年)6月2日(夕刊)』文化欄

ラオスを通して見えるもの NGOの大いなる可能性

『中日新聞2000年(平成12年)5月1日(夕刊)』

ラオスを通して見えるもの

『建築文化1999年11月号』

聖路加ガーデン 複合機能をもつツインタワー 親水性を確保し再開発のシンボルに

『日経アーキテクチャ 1994年8月15日号』News建築

聖路加ガーデン

『新建築 1994年9月号』

■ 特許等

「高層建物間連絡通路」

「連絡通路」

■ 解説・総説

■ 著書

□加藤隆久・他共著. ヨーロッパ建築案内. 工業調査会.

□加藤隆久・他共著. アトリウムの計画とデザイン. 建築技術. 1993. 189p

■ 招待講演

□2011年8月 日本建築学会大会 連続講演「建築の可能性のこれから」『建築をとおして見えるもの』

□2011年4月 福岡大学建築展2011 シンポジウム「夢の向こう側」

□2010年9月 ラオス国立大学 ラオス人民民主共和国友好勲章叙勲記念講演「環境と建築」

□1992年 社団法人日本河川協会「第7回都市河川セミナー」

□1992年 日本建築家協会「都市デザインセミナー」

□1989年 J A T F C 「第7回、第8回土地高度利用セミナー」

■ 主な研究設備等